

8. 準備

- ・横浜美術館コレクションより、鑑賞対象として片岡球子作《富士》を選択。
 - ・鉛筆、色鉛筆、付箋紙、ワークシート1、ワークシート2、着彩用に薄く白黒コピーした片岡球子作《富士》(A4版)、片岡球子が描いた他の富士作品図版
- ※上記以外に、パワーポイント作成映像を全般の進行ツールとして、また葛飾北斎作《富嶽三十六景「神奈川沖浪裏」》の画像を、展開2のため（誰もが知る富士作品の一例）として用意。

9. 授業展開（全1時間）

	学習活動	指導内容および留意点
導入 5分	① 誰もが知っている富士山をテーマに鑑賞の授業を行うことを知る。	・富士山は「世界文化遺産に認定」され「日本の象徴」でもあり「わたしたちの地域から見える身近な存在」でもあることを話題にしながらか動機付けを行う。
展開 (1) 10分	② それぞれが思いつくままのイメージで、付箋紙に鉛筆で富士山をクロッキーしてみる。 ③ ワークシート1 に貼り、ネーミングしながら、お互いの富士山について感じたことを伝え合い、共感したり違いに気づいたりし、ワークシートに書きとめる。	・それぞれの思う富士山のイメージを素直に1～2分で表現させる。 ・ネーミングすることで「自分の富士」感を持たせつつ、自分と違うところや共感するところを伝え合うように促す。 ・話が落ち着いたところで、 ワークシート2のMEMO1 に記入させる。
展開 (2) 25分	④ 美術館に収蔵されるような作家の作品にも、富士山が数多く描かれていることを知る。 【ここからが本時のメイン】 ⑤ 横浜美術館のコレクションの中で、横浜にゆかりのある片岡球子が数多く描いた富士山を鑑賞することを知る。 ⑥ 白黒コピーしたモノトーンの商品に出会い、どのような色彩なのか予想し合い、相談しながら富士山の部分を色鉛筆で着彩してみる。	・たとえば、小学校時に鑑賞してきていることの多い、葛飾北斎の《神奈川沖浪裏》を題材にするなどして、誰もが知る作家も富士山を描いていることを共有し、片岡球子を紹介する橋渡しをする。(④については割愛してすぐ⑤に入っても良い) ・片岡球子が、横浜の小学校の教師であったことを伝えて親近感を持たせ、生涯で数多くの富士山を描いたことを紹介する。 ・片岡球子らしい色彩をあえて伝えず、モノトーンだけでダイナミックな造形描写を感じ取らせ、色彩を予想し色鉛筆で着彩させる。

	<p>⑦ 班ごとにどのような考えで着彩したのか、発表し鑑賞し合う。</p> <p>⑧ 豊かな色彩の片岡作品を観ながら、その迫力を感じ取る。</p> <p>⑨ 造形的にもダイナミックで色彩も豊かな片岡作品から感じたことを言葉にする。</p> <p>⑩ 片岡球子がどのような思いを持って富士山と向き合っていたのか、本人の残した言葉を知る。 <i>「富士は最初描くのは優しいように思われました。でもとんでもない、描いても描いても、高さも大きさも、精神（こころ）も何もつかめないんです。どれも並じゃないんです。富士山と格闘するつもりでいた時もありましたが、結局お手上げでした、もう降参しなさい、って富士山に云われたような気がしました。」</i> <small>——『熱き挑戦－片岡球子の全貌展』P23 より抜粋</small></p> <p>⑪ 片岡球子が描いた他の富士を鑑賞する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他の班の様々に着彩したのを見て、どのような考えで着彩したのか確認させる。 ・作品のカラーコピーを用意し、富士山部分以外のところから徐々に覆いを外しながら、色彩的にも豊かでダイナミックな片岡作品の表現に出会わせる。 ・見て感じたことを率直に発表させる。自発的な発言を促し、なければ2～3名を指名して発言させる。 ・ダイナミックな色彩表現の中でも、とりわけ「赤」が多く使われることへの気づきを促すため、赤色の持つイメージについて語らせるのも良い。 ・作家の言葉を紹介することで、どのような思いを持って描いていたかを知り、絵を描くことは人それぞれの考えや葛藤があることをあらためて確認させる。 <p>・クールダウンと学びの回想をかね、他の片岡作品も紹介する。</p>
<p>ま と め 10 分</p>	<p>⑪ 片岡作品や作家自身について感じたことを書きとめる。</p> <p>⑫ 本時を通して学んだことのふりかえりを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・片岡作品を通して感じたことを率直にワークシート2のMEMO2に書かせる。 ・人それぞれに思う富士山があることと、思いを持って表現することに魅力や意味があることに気づかせ、ワークシート2のMEMO3に記録させる。

(指導案作成：横浜市立中学校教諭 金阿彌 勉)

■指導案作成者からのメッセージ

私自身が山好きで、同じ場所から刻々と変化していく山を眺めたり、その都度違う姿を見せる山に出会ったりすることが楽しみなので、何度もなんども富士と対峙した片岡球子作品に魅力を感じ、鑑賞授業に取り組みました。本校の環境も世界に誇れる美しい風景が観られるということもあり、生徒と一緒に感じ考えながら取り組める題材だと思っています。

■参考文献

- 展覧会カタログ『熱き挑戦－片岡球子の全貌展』横浜美術館、2000年
 展覧会カタログ『生誕110年 片岡球子展』東京国立近代美術館、2015年